

令和3年度 第1回 津山市総合教育会議 議事録（要旨）

- 1 日 時 令和3年11月10日（水）午時13分15～15時15分
- 2 場 所 市役所2階 第1委員会室
- 3 出席者 谷口市長、有本教育長、薬師寺委員、光岡委員、福見委員、土居委員
- 4 同席者 企画財政部 野口部長  
みらいビジョン戦略室 笠尾室長、岡主幹  
こども保健部 飯田部長  
こども保育課 馬場課長、廣野主幹  
教育委員会 栗野教育次長  
教育総務課 梅原課長  
学校教育課 河原課長、井上参事、八木主幹
- 5 会議日程 1. 開 会  
2. 市長挨拶  
3. 議 題  
（1）学力向上とICT活用について  
（2）保幼小連携について  
4. その他  
5. 閉 会

◆事務局

失礼いたします。定刻となりましたので、ただいまから令和3年度第1回津山市総合教育会議を開催させていただきます。私は、本日の進行を務めます企画財政部長の野口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。会議の開会にあたりまして、谷口市長からご挨拶を申し上げます。

◆市長

皆様こんにちは。大変ご苦勞様でございます。お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。平素より、皆様方には、次代の津山を担う子ども達の健やかな成長のために、ご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、当初は8月26日に予定をしておりましたが、今日もこうしてマスクを着けてご参加いただいておりますけれども、感染症の影響で延期をさせていただいていただいております。その後、今は、収束までにはいきませんが、落ち着いた状況になっているということで、今回、開催をさせていただくことになりました。ワクチン接種により、感染拡大を防止していくということでもありますけれども、当市におきましては1回目が85%、2回目が83%という状況になっておりまして、これも接種に協力いただいた方々、並びに、医療機関の皆様方のご協力のおかげと考えているところです。

さて、教育委員会はもとより、各学校におきましても感染症対策に随分ご尽力いただいております。非常にありがたいと思っておりますけれども、引き続き、今しばらく緩むことなく対策をしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議でございますけれども、まず、議題1といたしましては、学力向上とICT関係ですね。二つ目につきましては保・幼・こ・小の連携について、皆様方にご意見を頂戴したいと思います。この後、現状をお示しさせていただいて、本市の課題と今後の方向性について、しっかりとご議論といたしますか、皆様方からご意見をちょうだいして参りたいと思っております。どうぞ、広い視野からの忌憚のないご意見を頂戴しまして、今後の政策に活かしてまいりたいと思っております。よろしくお願いいたします。

◆事務局

市長、ありがとうございました。それでは、議題へと移ります。津山市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づきまして、会議の進行を市長にお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

#### ◆市長

それでは、着座にて進めさせていただきます。

まず、議題（１）学力向上とICT関係につきまして、事務局から説明をお願いします。

#### ◆事務局

学力向上とICTについてご説明させていただきます。

令和3年度の津山市学力向上対策として、重点的な取組3つを示し、取組を進めているところです。今回は、一つ目の学びのサイクルの具体化、見える化の徹底、確認と三つ目の学校におけるICT活用の推進及び先導的な取組の研究・実践について紹介します。

まず、学びのサイクルは四つの項目から成り立っています。まず一つ目は当たり前ですけれども「授業」です。授業を大切にします。そして「家庭学習」、さらに定着を図るために小テスト等を行う「定着度確認」や、さらにその定着度確認をした後に、まだ課題があるという部分に関しては「補充学習」を行います。学び直しをしながら、確かな学力をつけていく、これをしっかり回していくこと、これを学びのサイクルと呼んでおります。一つ一つの項目がより具体的でないと、なかなか学校全体の足並みが揃わないということで、各学校の実態に応じて職員で取組を共通理解し、より具体的なものを数字で表したり、回数で表したりしながら、このようなサイクルを効果的に回していこうということを教育委員会から各学校に指示をし、取組を進めているところです。

このサイクルについては、年間最低でも3回は取組を検証し、不十分な所は改善に励んでいただきました。我々が学校訪問などを通じてどのように取組が進められているかということをチェックをしながら、不十分な所は指導しているところです。

例えば、これはある小学校の学びのサイクルの具体例です。このように四つの項目について、その学校全職員が共有して取り組む、これだけはしっかりとどの学年でも足並みをそろえてやっていこう、という具体的なものを表したものです。これは、各学校ごとに示されているものです。我々は各学校が取組を検証したものを集約して、検討しながら学校訪問等で更に指導するということになっています。

このような中で宿題や定着度確認や補充学習をどのように行っているのか、具体的に示します。例えば宿題です。ここに示しているのは、問題データベースを活用した条件作文の宿題ですけれども、なかなか骨のある宿題です。学んだことを活かしたり、与えられた条件、条件作文と言いますが、与えられた条件に沿って、文章を書いていく、字数制限もあつたりします。このような、条件作文のようなもの、それから算数で言うと過去問題のようなものにしっかり取り組んでいただいております。大体このような骨のある問題は週末に行うことが多いので、各学校では週末課題と呼んで、ほ

とんどの学校が土曜日、日曜日などにはこのような宿題に取り組んでいると我々も捉えているところです。そして、この宿題の解説は、月曜日に担任の先生が中心になって行っていると思います。

次に定着度確認ですけれど、学ぶことがどのくらい定着しているかを確認する手だての一つとして、学力テスト等の結果からベンチマークを作成し、課題が見える化している学校もあります。例えば、令和2年度の県の学力テスト5年生の算数に、 $9.3 \times 0.08$  というものがありましたけれども、実は津山市の正答率が非常に低いということがありました。そして各学校でこのようなベンチマークを作成すると、学校ごとに、高い学校もありますが、津山市の正答率と同じように低い学校もあります。そのようなことをベンチマークで示すことによって、課題が見える化されて、その課題を解決するために、小テスト等を繰り返し行うことで、苦手をなくしていくという取組が定着度確認です。そのほかにも、小学校でも中学校でもテストの前に習熟の時間を確保し、小テストとタブレットドリルを活用します。今年度から本格実施していますが、タブレットドリル等を活用して、苦手な問題に取り組んで、自信を持って問題を解くことができるような取組を行っている学校もございます。

そして、補充学習です。ここの写真にもありますけれども、この補充学習の大きな目的は、苦手な分野であるとか、前の学年の学習内容などを徹底して学び直す、苦手をなくしていく、というところが大きな目的です。基礎学力の底上げを行っていく取組になります。学校ごとに、時間の設定は違いますけれども、このような補充学習が行われています。右側の写真などをご覧いただくと、学校によっては、自由にプリントを取れる棚を作成していて、先ほどのベンチマークに照らし合わせる場合もありますけれども、自分が割合の分野が苦手だということであれば、その部分のプリントをたくさん取って学ぶ、という学校もあります。棚が無い学校は、教室にズラッと、先生方が印刷したプリントがあって、それを自分のペースに合わせて、自分の苦手分野を見つけて、取り組んで、また見直しということも行われています。

この学びのサイクルですけれども、これを徹底することによって見えてきたことは、ブルーの吹き出しの部分です。「ICTが今年度しっかり活用されるようになりました。」「宿題を大切にしていこう。」「学校全体で共通した宿題を出していこう。」というような、組織的な取組が行われることによって、提出率の向上であるとか、それから週末課題などが充実してきました。

それから、補充学習で言えば、どの学校でも充実した取組となっています。地域の学習ボランティアの方や、高校生が、教えてくださっている場合もあります。また、ピンク色ですけれども、見えてきた課題としては、やはりまだまだ授業改善を進めていけないといけません。これは学力の本丸でもありますが、しっかりと、授業改善していくということで、やはり1時間の授業の中で、「ここまでは子どもに定着させたい。」というところが、ちょっと尻切れになってしまう場合もありますので、授業の

中できっちりと定着までやらせましょうという、そういうタイムマネジメントをしっかりとっていく必要もあります。また、指導の系統性です。津山市の子どもたちの実態として、算数でいうと、割合の分野に、課題があります。3年生から6年生にかけて、割合に関わる算数の単元がありますので、そういうところの指導を系統的に行うことなどの課題もまだまだあります。

それから定着度確認ですけれども、学校によって、いろいろな方法で行っていますので、まだまだ具体的な数値化ができてない学校であるとか、月単位で定着度確認をしているような学校もありますが、本来でしたら、こまめな定着度確認をしていただきたい。そのために教育課程とか時間割とかを見直す中で、しっかりと子どもたちに苦手を無くして欲しいというような指導もしておりますし、まだまだ課題のあるところ です。この学びのサイクルを軸として、今後も津山市の子どもたちの確かな学力を高めていきたいと考えているところです。

次に、ICTの活用です。本市においては、ここにお示ししているようなICT活用のロードマップを示して、各学校に取り組んでいただいているところです。今年度の最初は、登校したらまず保管庫から出しましょう、出さないことには活用になりません。朝来たら保管庫からタブレットを取り出す。そして毎日1回以上、端末を活用した取組をしていきましょう。そしてその下の段ですけれども、ステージ1とステージ2に大きく分けました。

ステージ1としては、慣れる段階です。撮影であるとか、拡大を試みるとか、とにかく子どもたちに慣れさせる段階、そしてステージ2としては、授業の様々な場面で活用していきましょうということを進めているところです。もう少し詳しくご説明させていただくと、保管庫から取り出すことですけれども、このように学校によっては、ランドセルを入れているロッカーに朝来たら入れます。辞書と同じようなものです。文房具の一つとして、取り出していつでも使えるようにしています。学校によっては、カゴを買って、カゴの中に班ごとにタブレットを入れている学校もありますし、机の中に入れて、給食時間や掃除時間などの運ぶ時だけ、ここに戻すなど、いろいろな活用といえますか、タブレットの置き方を工夫しています。

それから、小規模の学校でしたら、取り出すときにそんなに混雑はしないんですけれども、1クラスに40人近い子どもたちがいる学校では、一斉に取りに行くと、非常に混雑したりします。そういう時に先生方が工夫して、カゴの中も、100円ショップなどに売っている本を整頓するようなものを立てかけたりしながら、そしてシールで目印をつけて、すぐに充電できるようにしたりして、保管庫から取り出しやすくするなどの工夫はどの学校でもしているところです。このような小さな工夫をすることによって、毎朝タブレットを取り出して、子どもたちが使いやすい環境を整えています。

授業の中ではどのように活用しているかという、一例ですけれども紹介します。例

えば撮影です。自分が作った調べ学習の新聞や友達の作品であるとか、植物の成長などを写真で撮っておけば、ずっと撮りためていきますので成長がわかります。それから体育の授業で友達の前回りを撮影したり、自分の前回りを撮影してもらったりして、お互いにその動画を見ながら、「ここちょっと直した方がいいんじゃない。」と意見を言い合うというような活用も行っています。撮影にもいろいろな方法があるというのは、我々も現場に行って、先生方と一緒に研究しているところです。それから、中学年、高学年、中学生などは、様々な場面で発表する場があります。そのような発表原稿を、ワープロソフトで作成して、そのままタブレットを使って読んでいく、という事も行われています。

この導入によって、これまでは、ローマ字学習をした後、紙ベースでローマ字を探していましたけれども、今度はタイピングができるようになりましたので、ローマ字の習得にも非常に役立っています。多くの学校がおそらく一番使っているのがジャムボードという電子付箋アプリです。これまでは、図表などに皆が意見を付箋に書いて貼るという事をしていましたけれども、小さなグループの中で意見を出し合うということでした。クラスの子どもたちが一つの画面を共有して、その画面の中で気づいたこと、これをどんどん貼り付けて、意見を交流するという事をしてしています。この付箋は動かすことができるので、例えばある考えに賛成か反対かということで、自分の名前が反対派の方に貼ってあって、友達は賛成派になってるという、名札代わりに使えますし、本当にいろんな使い方を先生方は研究してくださってます。このような、様々な使い方で、今ステージ2の段階で取組が行われているところです。新聞記事ですが、6月に高野小学校4年生の授業実践で、私も拝見して参りましたが、4年生の1組と2組の教室の壁を越えて、オンラインで意見交換を行うという授業も行われました。自分が作った都道府県新聞を自分で撮影します。そしてサーバー上にあげます。4年生1組の子たちは、4年生2組の子たちの都道府県新聞をタブレット上から見る事ができます。そしてお隣のクラスのお友達の新聞に先ほどの電子付箋でコメントを貼り付けていっております。「何々県のマスコットの事を調べてすごいね。」と。どんどん隣のクラスの子どもたちから、付箋がどんどんやってきます。今度はお返しに4年生1組の子どもたちの、都道府県新聞を見に行こうという事で交流をするという事が行われました。本当に先導的な取組でしたけれども、様々な可能性があって、最後に子どもたちに意見を出させたら、この学習中に途中で転校した子にも見てもらいたいと言っていた子もいましたし、高学年であるとか、学校の先生方にも見てもらえるんじゃないか、コメントをいただけるんじゃないかということも子どもたちが発言していたところです。これは一例として紹介させていただきました。そのほかに、このコロナ禍でなかなか一堂に集まれないことから、オンラインの全校集会をする事も、もう当たり前ようになってきました。校長室から、各学年の教室に向かって校長先生が朝の話をされています。普通はこれだけですが、もうひと工夫がある学校で

は、この右側の写真を見ていただくと担任の先生が子どもたちを映しています。担任の先生が写したクラスの様子は、校長先生の画面上に映ります。つまり校長先生はすべての子どもたちにしゃべっているような状態です。ひと工夫、担任の先生がカメラを入れることによって、オンラインの全校集会も一方通行よりも双方向に近い形になってきている実践もあります。

そして、この遠隔による授業や取組ですけれども、今、津山洋学資料館との連携で、遠隔による見学、それから授業、これも今年度中には実施予定です。これまでは、津山市の6年生が全員、洋学資料館に見学に行っております。6年生は見学はできるんですけれども、それ以外の学年の子どもたち、4年生であるとか、5年生であるとか、地域の学習であるとか、調べ学習等で、箕作阮甫のことが知りたいというようなことも実際あります。そういう場合に、洋学資料館と遠隔で繋がることによって、リアルタイムで、解体新書を近くで見せていただくとか、特典としては、より近くで映していただいて、調べ学習の視覚的な資料として活用させていただくというような話も今進んでいるところです。試行的ではありますがけれども、洋学資料館の職員の方々に授業のような形でも、遠隔でできないかということも進めていただいているところです。

今日は主に学力向上に関する学びのサイクル、そして、授業におけるICTの活用について、現状をご報告させていただきました。以上です。

#### ◆市長

はい。ありがとうございました。それでは事務局から、説明をいただいたところですが、まずは教育長からお話いただけますでしょうか。

#### ◆教育長

先ほど事務局から話をしました「学びのサイクル」これが、試行を入れて3年目です。教育委員の皆さん方も、学校訪問で、各学校から説明があるように大分定着してきたと思っています。その結果として、本年度の全国学力学習状況調査或いは県調査を見ても、小学校3年生4年生5年生は、全国平均を上回るような結果も出ております。それから、私が一番うれしいのは、今回、全国調査で初めて自己肯定感が全国平均を上回ったことです。自己肯定感は今まで全国を下回っていたのですが、上回ったということが各学校のきめ細かな、子どもたち一人ひとりへの声掛けも含めて、子どもたちの取組を称賛したこと、そのことが自信にも繋がってきたのかなと思っています。本市の目指す教育の大きな柱は、一点が確かな学力の定着、それからもう一点が、自己肯定感の醸成でありますので、この二つの柱が少しずつ具体的に、成果を上げてきているのかなと思っていますところであります。とはいっても、今回の調査結果から課題も見えてまいりました。

例えば、小学校6年生、或いは中学生の学び直しの不十分さ、この辺りを更にどう取り組んでいくか、特に、中学3年生のスマホ・ゲームを2時間以上使うが7割以上

あるというような、これも大きな課題として見えてまいりました。こういう辺りを、今後、ICTの活用も踏まえながら、しっかりと進めてまいりたいと思っているところでもあります。

それからICTの活用につきましては、教育委員さんも、前半の学校訪問と後半の学校訪問で何が変わったかと言ったら、このタブレットの活用状況が1学期全く変わってきたというところだとお感じになったと思います。まだまだ、使い方については研究の余地はあるでしょうけれども、各学校がいろいろ工夫しながら、取り組んでいるというところを目指しておりますので、これからさらに充実するような先生方の研修も含めてできたらいいなと思っています。

昨日、都市教育長会がございまして、そこでタブレットの活用状況を情報交換したわけですが、約半分の市がタブレットを毎日持ち帰らせています。ちょっとそれには驚きました。津山市はそこまでいっていないので、その辺りを今後、文房具の1つとしてということを考えれば、そういう方向に持っていけるように研究をしていきたいところです。

この後の協議の論点としましては、ICTのさらなる活用を今後どうしていくかというあたり、そしてまた、先ほどスマホのゲームの問題がありましたけれども、これはもう家庭或いは地域との連携も必要なものだと思いますので、その辺りが、この後の論点になればいいと思っています。以上です。

#### ◆市長

ありがとうございました。

事務局と教育長から、現状の課題を踏まえて、問題提起をいただきました。

それでは、ここからは教育委員の皆さんに、これまでの取組に対してのご感想や、それから今後のあるべき方向性を、まずはお一人ずつお答えをいただいて、その中で、質疑があれば一つずつ済ませていきたいと思います。

それでは、お願いします。

#### ◆教育委員

先ほど教育長さんのお話の中にもありましたけども、教育委員として、学校訪問をさせていただいております。その中で、授業改善も含めて、いわゆる学力調査等の結果を踏まえまして、小テストだとかいろいろな取組をし、そして、学び直し、補充学習というのが出ていますが、これらの取組が各校で非常に進んできたと思います。

そして、授業の中でいろんな課題のある子どもさんも含め、その状況を、いろんな共通のデータとして、みんなで共有しながら、一歩二歩と進められるように、取り組んでおられることにとても感心をいたしました。非常に各校努力をされていまして、その取組に本当に敬意を表したいと思います。

それから、ICTの活用ですが、私もなんかすごく進歩してるというか、学校現場での取組が、こんなに進んできてるのかと思いました。去年からタブレットが入って

どこまで活用ができるのだろうかということを感じていたんですけども、それが一歩二歩と進んで、ここのステージ1から、もうどんどんステージ2に入ってきて、子どもたちは本当に軽快なタイピングと申しますか、入力をしている姿を見て、非常に驚きました。驚きましたというと大変、他人事のような言い方もかもしれませんが、本当に子どもたちも慣れてきている。慣れてきている状況をいかに、学級全体でタブレットを活用した取組になっているということが、非常に感心をしたところでございます。いろんな状況が先ほど高野小学校のクラスを超えてとか、というようなこともあったと思いますが、これがもっともっと進んでくるようになれば、学習の発展性といえますか、可能性が広がるのかなあということを感じております。

#### ◆市長

委員から学校訪問の中で、非常に学力向上の取組も進めているし、ICTもうまく使えているのではないかとということでご意見をいただきました。次の委員お願いします。

#### ◆教育委員

とてもわかりやすい報告をいただきました。学びのサイクルは、いろんな学校でこの学びのサイクル自体を各先生方にわかりやすく提示しているというか、そういったところを見る化というか、先生方が共通して、同じ目標に向かってというのが、私にもよく伝わってくるように工夫されておられました。ただ、この学びのサイクルに乗っかっていけている子どもさんはいいかなと思うんですけど、訪問とか行かせていただいたら、ちょっとそこに乗り取りきれない、授業に参加できてない生徒さんも何人かみえたりもするので、そういった子どもさんの格差というか、そういった配慮の仕方というか、どうやったら引き上げていけるのかなというの、学びサイクル自体はとてもいいんだけどもここに乗っからない子どもたちをどうしたらいいのかなというの、学校を回ってみて思うところもありました。

それから、ICTの方ですけど、この間行かせていただいた中学では、同時に3クラスしか使えないWi-Fiの状況だということで、ICT活用の中で、1日1回はって書いてあるんですけど、多分この調整をするだけでも先生方がとっても大変なんじゃないかと思います。小学校なら、同じ先生がずっと同じ教室授業をするわけなんです、中学に行ったら科目ごとなのでどっちが調整しやすいかわからないんですけど、ちっちゃい学校だったらもしかして一斉に全員の子どもたちが使えるかもしれないけども、大きな中学では、3クラスが限界だって言われていたので、ここのWi-Fiの状況を早めに何とかしないと、なかなかこの1日1回以上いうのも難しい学校があるのではないかと思います。

授業の内容はとても工夫されていて、この前行かせていただいた中学校では、プレゼンができるように作っていたのですが、そのまま、高校でも大学でも使えるぐらい腕のある子どもさんもいたりして、そういったところは、早いうちから力をつけてお

くと、大人になって困らないだろうなと思って見ていました。

他にも、小学校では、音楽でも使っていました。飛沫が飛ぶので吹く楽器が使えないというので、鍵盤ハーモニカのタッチをタブレットで練習するとか、そういったコロナだからこそ使えるICTの活用というのも見受けられたので、コロナと重なってICTが入ってきたので、そういった活用としても意味があったのかなと思います。

あとジャムボード、これは私も大学でしたいなと思うんですけど、大学は模造紙を買っていて、パソコンも一人一台ぐらいは持っているんですけども、授業では模造紙を買ってしています。もしこれがあったら、自由にできて記録が残りやすいのでいいです。模造紙を片付けるのもしんどいので、これはちゃんと定着もするし、なんだったらこの一瞬のところのスクショを撮っておけば、1個ずつデータをとっておけるので、途中経過も残せるんじゃないかなと思うので、これはいいなと思って見ていました。

#### ◆市長

ジャムボードについては、大学より進んでいるという事でお話しいただきました。委員もトータルで見るといい方向に向かっているということでご意見をいただいていますけど、課題が二つあったと思うのですが、一つは、学びのサイクルに乗っかれない、参加できない子どものことをどう考えていくかということ、もう一つはWi-Fi環境をしっかりと準備して欲しいということで、教育委員会だけではなく、財政的なことにも関係してきますけれども、しっかりやっついていかないといけないということです。

まずは、学びのサイクルに乗っかれない、参加できてない子どもを、どう認識をされて、認識されている中で何かお考えがあれば、途中であってもお答えできることがあればお願いします。

#### ◆事務局

学びのサイクルに乗っかれないという視点について、これまでもそういうお子さん達は少なからずいたと思います。特に、近年注目されて、もう当然のようになっておりますが発達障害の観点です。通常学級にいるけれども、何かしらの発達に違いがあり、視覚的に強い子もいたり、聴覚的に強い子もいたり、そういうお子さんたちは一斉授業の中で、同じ情報を掬い取れないということが考えられます。それが、今、ものすごくピックアップされている問題だと考えています。ですので、そういう意味では、特別な支援が必要な授業の一助を担うのが、このICTの活用であつたりすると思います。そういう子たちは活動が明確であつたり、活動が多様であつたりすると、飽きがこなかつたりしますから、そういう視点で先生方に授業づくりをしていただくことは、非常に大切だと思っております。委員にご指摘していただいたことはとても大切なことだと思っております。どの子も学びのサイクルに乗っかっているんだという認識を我々が持たないような、今後、取組をしていけたらと考えています。

#### ◆市長

それから Wi-Fi の状況について、把握はできていますか。

◆事務局

ご指摘のように、中学校では全クラス 18 クラスが一齐に使うと止まってしまうような状況がございます。今年度に入ってから、契約しているプランを見直したり、市内の光回線の整備状況に合わせて、光回線に契約変更を順次行っている状況です。

先日、東小学校で、全クラスで一齐に立ち上げる実験を行ったところですが、一切止まることなく 6 クラス以上使えたという状況です。少しずつ回線状況への取組が功を奏しているのではないかと考えております。

今後、活用が増えていくと回線の増強も必要になってくると考えております。

◆市長

では、続きまして、ご意見を申し上げます。

◆教育委員

まず学びのサイクルでは、3 年前から取り組まれているということですが、3 年前と今ではもう大きく変わったのではないかと感じています。私も小中高の子どもが居るのですが、その中でも、学校で補充プリントと定着確認のためのプリントの取組が 3 年前ぐらいにできて、素晴らしいなと覚えておりました。テストで苦手な部分のポイントのプリントを選べるようになっていて、それを学校によっては、保護者にも個人面談の時に伝えて、保護者と一緒にプリントを持って帰ってもらって、家で勉強ができるといったような取組をしていたりしていました。

そういった、いろんなことを学びのスタイルという見える化するということで学校が考えて取り組むと、この 3 年ぐらいの間に、水平展開で、横にどんどんいろんな学校に広がっていているということがありまして、学校訪問でも、先生方が主体的に考えておられるのを感じました。すばらしい取組については、先生方のコミュニケーションで、他の学校にも伝わっていているという形で、すごく良い流れができているところではないかなと感じました。

ICT の活用については、本当に、教育長も言われた通り、前半の学校訪問と、後半の学校訪問では使われ方が違って、大変驚きました。新採用の先生も、スムーズにタブレット等を活用している姿を見せてもらいまして、本当にこういった時代になったなと感じました。電子黒板と一人一台端末と連携してうまく活用がされていると感じました。

それが、学校によっては若い先生がそういった資料づくりとかを、中心に取り組んでそれをまた他の先生にも伝えていくといったような流れもできていたようで、そのあたりも、若い先生の活躍の場ができたり、意欲や目標が高くなるといったようなこともいいと思いました。

逆に年配の先生が、今後、どういう風に上手に取り組んでいけるかというようなところが気になります。研修等もいろいろとやっていることと思いますが、取り残され

ないよということと、会社でもパソコンができない上司が、なかなか部下の指導ができないだろうみたいなことが起きないか、こういった風にバランスをうまく取って取り組んでいくかというようなところが、重要になると思います。

ネット環境については、言われたように、特に中学校を中心に課題を感じました。中学校ではやっぱり人数も多いですから、そのあたりで、そこが整えば逆にもっとも活用がスムーズにいくと思いました。あと長期欠席の子もいる中で、ICTを活用することによって、家庭と学校を繋いでいくとか、教室とつないでいくとか、友達と繋いでいくとか、そういったような取組にもなればと思います。

コロナ時の対応のマニュアルが、具体的で素晴らしいものができていて、コロナでこうなったときにはこうします、遠隔事業でこうします、一人一台端末でこのように進めていきます、といったような形でできています。8月から9月ぐらいに、感染者が大変増えた時には、保護者も大変な不安がありまして、ぎりぎりのところでしたけれども、これ以上増えたらどうするんだろうかと言ったような声があった中で、方向性をきちんと定めてという姿が、すごくわかりやすく、安心にもつながると思います。

今は、ここ2年ぐらい、PTA活動もほとんど各学校できていないような状況で、そうなれば、学校の先生もほとんどわからなくなってくるといったようなことになっています。それだけ学校と保護者とのコミュニケーションもなかなか取りづらいといったような状況にもなっていますので、今後また落ち着いてきたら、ということもありますし、こういった中でもうまくコミュニケーションできるような方法を模索していくということも重要なことだと思います。特に家庭学習等では保護者にうまく伝えて巻き込んでいくといったようなことも重要でしょうし、そういったことが学力向上にも繋がっていくというふうに思います。

#### ◆市長

ありがとうございました。学びのサイクルの水平展開とおっしゃっておられましたが、横に広がりが出ているというのはいいですね。以前、教育長とも、成果の上がっている学校の取り組み方を、皆さんで共有できたらいいんじゃないのかという話をしていたのですが、そういう形が見えているということですね。大変ありがたいと思います。ネットワークが良くないということにつきましては、考えてまいりたいと思います。

あと、先生の方のICTに対する取組方が重要ですよ。先生方も、得意な方も不得意な方もおられるでしょうし、教員に対するICT活用というか、研修について事務局から何かありますでしょうか。

#### ◆事務局

今年度5月の段階で、教職員に、どのような使い方をされていますか、そして効果的な活用方法があれば、事例集するのでお寄せください、ということで、1回集計し

て事例集を各学校にお返ししております、良い取組を取り入れてくださいということを行っております。それから、研修は非常に大切に、コロナ禍でできなかった部分もあるんですけど、各学校で先導的に取り組まれている若手が中心になりますけど、そういう先生方が居られるので、現場の先生方に講師をしていただく研修を計画していました。OJTといひまして、これまではベテランの先生が若手の先生をチームで育ててというような形が、いい意味で逆の若手の先生が、そういう苦手意識を持たれている先生方に教えるというようなことも、今後は、当たり前のように学校の中で展開されるのかと思っています。

#### ◆市長

では、次の委員をお願いします。

#### ◆教育委員

私も他の3人の委員と同意見で、学校訪問させていただいて、本当に、今、事務局から説明されたことが、まさに学校現場で行われているというふうに感じています。それは、教育委員会の方から、内容とタイムスケジュールを示してあることが大きな一つの要因かなと感じました。

一定以上の取組が、すべての学校で取り組まれているということは、非常に津山市の教育の向上に効果的だと思います。ある程度の内容とタイムスケジュールを示すことが、非常に大切なことだと感じました。他の委員会の方から言われましたけれども水平展開なんですよ、効果があるのは。情報交換や、或いは教育委員会の方から提示をしたりですね、やっぱり良いものを取り入れていくことを、やっていけば、より良い学びのサイクルであったり、或いはICTの活用だったりすると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学びのサイクルに視点を絞って少しお話したいと思います。3年目で、定着ということで、ある校長先生がこんなことを学校訪問でおっしゃいました。「一人の子どもも取り残さない教育、一人の子どもも取り残さないんだ。」と。また別の校長先生は、「うちの学校は、個人のデータを一つ一つ洗い出して分析して、そして学び直しに使っているんだ。」という校長先生も数名いらっしゃいました。

こういうところは、本当に学力の向上もそうなんですけども、子どもたちが、やっぱり身につけていかなければいけないことを、きちんとピックアップして、そしてそれを回復できるので、そういうシステムがいいなというふうに感じるところであります。それから、この見える化が非常に良くてですね、学校訪問しますと、この見える化に沿って、学びのサイクルの見える化この四つの表ですね、各校の実態に合わせてそれぞれ練られているのが実際に行われてるということで、やはり、有効だというふうに感じているところであります。

ICTの活用の方に移りたいと思います。これもですね、先ほど言いましたように内容とタイムスケジュールが書いてあります。そして、令和の日本型教育では、個別

最適な学びと、もう一つは協働的な学びと、いわゆる独りよがりにならないようにするために協働的な学びが必要だということです。今の学習指導要領は、新しくなりましたが、「主体的対話的で深い学び」でその中に、授業展開、授業改善の中に個別最適化と、協働的な学びを組み込んでいくと、そこにもICT活用の良さが出てくるんじゃないかなと感じています。

先ほど事務局が説明されたように、ジャムボードです。大学では使ってないとのことでしたが、このジャムボードが、個別最適化と協働的な学習において非常に効果的だと、学校訪問をさせていただいた中で感じました。まず、子どもが課題に対して、自力解決、個別的な学びをして自分で一生懸命考えて、それもタブレット端末を使ってそこに記入しているんです。もう子どもの目は生き生きとしています。タブレットがないのとあるのではすごく違うなと感じたところです。それで個別的な学習をして、それを自己表現します。タブレットから、スクリーンの方にパッと映し出されますね。そして、その次に何をするかというと協働的な学びで、比較検討していきます。或いは似た者同士集めたりですね、そんな学習展開をして、そこで、これはこういうふうにもまとめられるんだ、こんなふうなやり方があるんだということで、比較検討して、あっ単純なものの方が僕はいいなとか、こういうやり方もあるんだな、それが学びに繋がっていくんじゃないかなというふうに、学校訪問で感じました。ぜひ、タイムスケジュールの中に、ある先生の内容、例えば、ジャムボードをどの場面で使うかとか、使えるのが効果的であるから、使ったらいかがでしょうかであるとか、そんなことも、ただ、日常的に使えるようになっただけじゃなくて、もう一步前進してもいいのかなとは感じました。あまり縛りを入れてしまうと、独自性が発揮されなくなる可能性があるので、基本はそうかなというふうにも感じました。

最後に、皆さんが言われてます、ここまで使えるようになりたいと言っても私もそうなんですが、スマホの使い方も自分自身もあまりよく分かってないですけども、すべて自動は、とてもじゃないけどそこまで使えません。そこでやっぱりICTアプリの技術の研修が必要になるのかなというふうに感じさせられました。以上です。

#### ◆市長

ありがとうございます。（事務局から挙手あり）どうぞ。

#### ◆事務局

先ほどから話に出ている研修について補足で説明ですが、研修については、ICT支援員を配置しております。このICT支援員を積極的に活用している学校は、本当に先ほどの年配といいますが、ちょっと苦手意識のある先生方にとっては非常に心強い味方で、そのICT支援員さんは、校内研修をプロデュースしてくださったりとか、先ほどのジャムボードの使い方等の指導もしてくれます。各学校でしっかり活用していただくよう学校にもお伝えしております。

それから、もう一つロードマップがもう少し詳しくてもいいんじゃないかという

ころは、また検討させていただきたいと思います。今後、新しいジャムボードに変わるようなものも出てくるのかなと思っているので、その辺も、我々もそうですし、現場もずっと勉強の連続なんだろうと考えております。

#### ◆市長

ICTの方は、ICT支援員の確保をしっかりしてまいりたいと思っております。また、その内容とタイムスケジュール、ロードマップについても触れていただきました。

教育委員の皆様にお話をお伺いしたところですが、すべての方が、「学校訪問」というキーワードをおっしゃっていました。やっぱり現場ですよ。現場をしっかり見ながらどう対応しているかなんですよ。現場をしっかり見ていただいてですね、それがどう生かされてるのか、生かすために何をしたらいいのかということ、言っていただけだと思います。

冒頭に、教育長に触れていただきましたけども、小学校3年生、5年生が、学力テストで、全国平均を超えたということです。大変喜んでおりまして、もちろん、そのことだけで教育がすべてできるわけではないんですけども、しかし、少し学力が追いついてなかったところが、この3年間の、学びのサイクルの取組が大きく成果を上げてると感じているところです。

#### ◆教育長

ICTの関係で、学校情報化認定ということで、県の教育長からご提案をいただいております。これに応募すると学校情報化優良校というものがもらえるそうです。資料をみるとレベルがあって、レベル1、レベル2、レベル3とですね、目標を持って進められるということで、本市も全ての学校が優良校がもらえるように取組を進めていきたいと考えております。一斉にというよりは、できるところからどんどん進めて広げていくことによって、全体のレベルアップになるということで、学校情報化優良校の取組をぜひ進めてまいりたいと思います。

#### ◆谷口市長

議題1につきましては予定している時間となりましたけれども、委員の皆さんから、これだけは言うておかないといけないということがありましたらお願いします。はいどうぞ。

#### ◆教育委員

先ほど5月に事例集を作ったが、コロナで研修ができなかったとあったんですけど、学校が離れていても、ぜひICTで研修ができる環境を作っていただきたいです。先日、教育委員会でも、ICTを使って会議に入ってもらったんですけど、データは共有できますし、先ほどの全校集会みたいな感じで研修ができるので、そういった環境をしてあげたら、先生方の研修は止まらないというか、中止にならなくて済んだのかなと思うので環境整備をよろしく願いいたします。

◆市長

はい、ありがとうございます。先ほどの委員のご意見をしっかり活かしてください。他はよろしいでしょうか。それでは議題1は、ここまでとさせていただきます、5分間ほど休憩をさせていただきますと思います。

～ 5分休憩 ～

◆市長

それでは、会議を再開いたします。議題（2）の保幼小連携につきまして事務局から説明をお願いします。

◆事務局

まず1点目の連携の体制づくりからお話をさせていただきます。保幼小の交流の主な目的は、園児にとっては小学生への憧れを持つことや、小学校の様子を知ること、児童は多様な人々と出会うことで、自律し生活を豊かにすること、教職員にとっては心のみとり方や指導方法を共有することなどが挙げられます。

連携については、以前から、長年取り組んできておりますが、公立幼稚園が2園になったことで、日常の交流が難しくなったことや、保育園等でも、地域によって取組方が様々であることなど、継続的な交流の機会を確保することが課題となっていました。以前から、各園、学校の連携担当者レベルでの研修を実施していたことで、担当者間での理解は深まっていますが、学校・園全体での理解にはなりにくいということも課題となっています。教育委員会とこども保育課が連携し、今年度は管理職会の組織化と教職員の合同研修に引き続き取り組むことにいたしました。

まず、管理職会の組織について説明します。組織化は段階的に実施し、公立幼稚園2園と学校との連携を継続した取組にするため、関係園・校の管理職会を立ち上げ体制づくりを行いました。つやま西幼稚園は、向陽小学校、佐良山小学校、西小学校と、つやま東幼稚園は、高野小学校、鶴山小学校、林田小学校、成名小学校と連携することにいたしました。

組織化する小学校の選定については、今後、予定している保育園等を考慮しています。立ち上げた管理職会の第1回会議はオンライン会議でしたけれども、つやま西幼稚園は、5月28日、つやま東幼稚園は6月1日に実施いたしました。管理職会の顔合わせ、連携についての共有、令和3年度の交流、例えば給食体験や、園児の交流日、内容等について協議をしました。

しかし、コロナにより、緊急事態宣言が発令され、計画通り実施できなくなりましたが、給食試食会については、コロナ対策を十分取りながら、戸島の食育センターで実施できました。また、初めての試みとなる自園に給食を搬入して食べる試食会も実現しました。今年度の今後の予定ですけれども、小学校での試食会を予定をしてお

ります。第2回会議は、10月21日につやま東幼稚園、12月1日につやま西幼稚園にオンラインで実施し、1年生の様子を見たり、来年度の具体的な交流計画の日程調整、交流内容などの協議を行いました。今後の予定といたしましては、11月26日に実務担当者研修会に幼稚園の担当者も参加し、来年度の教育課程編成について協議を進めたいと思っております。

教職員の合同研修について説明します。今年度も、保育園、幼稚園、こども園、小学校の合同研修会を計画し実施しているところです。研修の目的としては、幼児教育から小学校教育に円滑な接続ができるようにということと、こちらは昨年も少し課題を踏まえて設定したのですが、接続カリキュラムを活用して互いの保育や教育の内容を理解することを設定しています。

研修としては、大きく二つありまして、一つ目は、集合研修です。今年は、少人数で、保育参観や授業参観、指導内容、指導方法などについて、具体的に交流の場を多く設定いたしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために分散研修の形態で実施し、管理職及び連携担当者が参加することとしました。管理職が参加することは、保幼小の連携の大切さについて、学校で理解が広がり、進むよう取り組んでいきたいという意図があるものです。二つ目は、動画指導研修です。鳴門教育大学付属幼稚園長の佐々木先生をお迎えして講演会を実施しました。

既に実施した研修会を2つ紹介いたします。10月に行われた、就学前教育・保育カリキュラム研修会です。しらゆり幼稚園の取組内容についての研修でした。協議では、「話し合い」活動をテーマに進められましたが、先生方からのアンケートでは、「聞いてくれる人がいるという安心感の中で自分の思いを伝える経験を積み重ね、認め合える仲間がいる事が大切だと思う。」「園でも発達段階によって、話し合い、認め合い、折り合いをつけるような場面をつくっており、話し合う力をはぐくんでいることがわかった」等、保幼小で大切にしている共通したテーマ「話し合い」活動で指導内容や指導方法について交流することにより、先生方が発達段階や接続を意識できる研修となりました。

2つめは、10月21日に行われた秀実小学校での生活科の授業参観です。参加した先生方のアンケートでは、「園ではもっと材料を準備していたが、小学校ではどうなのか」「子どもたちがより工夫をして作るにはどのような手立てが必要だったのか」と協議で問いがなされ、それぞれの立場でその教育活動を行った意図や目的を話すことで違いを意識しつつも、よりよい教育をするための工夫について、アイデアを一緒に考え出し合う先生方の姿を見ることができました。

また、課題となっていた、カリキュラムについても話をすることができ、各校でのカリキュラムの周知やカリキュラムの見直し等の必要性を感じることができました。

今後も保幼小が大切にしている共通のテーマでの協議や、カリキュラムの交流など、より指導内容や指導方法等への理解を深めカリキュラムの接続を意識できる研修

を行っていきたいと考えています。

次に、就学前後の情報連携について説明します。現在、岡山県では、平成26年度から、発達障害のある人のトータルライフ支援プロジェクトに取り組んでおり、その中でも、ライフステージの最初の移行期である就学前後における支援の連携が特に重要なポイントであると位置づけています。就学前後における関係機関連携強化事業が県庁のワーキンググループと五つのモデル市町村を中心に実施されております。五つのモデル市町村は、真庭市、瀬戸内市、浅口市、美作市、鏡野町となっております。これらの市町村の取組を参考にし、津山市でも、発達障害者支援関係者連絡会議の中でワーキンググループを立ち上げ、円滑な情報共有の仕組みづくりについて取り組むことにいたしました。

その際、使用するための共通支援シートについて、作成の目的として、最初の移行部となる園から小学校就学時に共通支援シートを用いて情報共有し、発達支援の必要な子どもの育ちを伝え、小学校入学後に、充実した学校生活を円滑に送ることとしております。対象児につきましては、①園で個別支援計画を策定し、園生活に支援が必要な子ども、②5歳児健康調査の結果、要支援管理中の子ども、③入学後に配慮や支援が必要と考えられる子どもとして進めています。

現在、発達障害者支援関係者連絡会議のワーキングを立ち上げ、令和3年5月から3年10月までで、会議を4回実施しております。その中では、津山市共通支援シートによる情報連携のためのガイドライン案「みんなで作るバトン」というものを作成中です。ワーキンググループの関係課は、障害福祉課、健康増進課、学校教育課、こども保育課と岡山発達障害者支援センター県北支所です。

今後の予定といたしては、令和3年度夏までに作成した、共通支援シート案につきまして、個人情報の扱いについてしっかり検討していきながら、情報連携が円滑にできるように取り組んでいきたいと考えております。説明は以上です。

#### ◆市長

それでは、保幼小連携ということにつきまして説明がございました。この件につきまして、ご意見をいただきながら進めてまいりたいと思います。また、今後の連携の方向性というところについてもご意見をお願いします。

#### ◆教育委員

詳しい説明ありがとうございました。

就学前後のいわゆる園児と小学校の交流ということではありますが、今、いくつか視点がありましたけれども、一つは交流ですよね。最後にご説明ありました、就学前後の情報連携ということで、健康調査をされたというこの交流が非常に重要じゃないかなと思います。今、津山市全体では8百数十人の、5歳児がいる、全ての子どもたちを、いわゆるこの言葉で言うと、見取っていく。そして、特別な支援を要する子ども、或いは、これは大丈夫だろうという子どもも、見取っていく。そしてその園で見取っ

たことを、小学校の先生方も共有して見取っていかないと、これは連携にならないんじゃないかなと思います。そういうワンセットも当然、していけばいいのではないかなと思います。

私が現役の頃は、9月ごろからですね、園にお邪魔してですね、一人一人を複数の職員で見取っていきました。園の先生方と情報共有しながら、そして受け入れていくというなことがありました。

二つ目の交流は、最初に出ていましたが、給食試食会ですね。園児が小学校をいくばくか体験しないと見通しが持たなくて不安ですよ。私も、今日、総合教育会議に初めて出席して、ちょっと不安な気持ちでした。どんな内容なんだろうと。案内には一行しか書いてないと。こういう資料があるということが何も書いてないので、他の委員の方に尋ねたら、「まあ、その時に頑張ってください。」と言われて、ちょっとドキドキしながら来てしまいましたが、やっぱり幾らか体験をしておけば、子どもたちも見通しを持ってできると思いますから、子どもたちの抵抗感があるものは何かという、やっぱり給食が大きいんじゃないかなと思うんです。他に何かあるでしょうか。例えば、私が経験したことで、園児を迎え入れた時、トイレ大きいな、スリッパ大きいなというようなことでね、そういうことは、一人一人違うかもしれませんが、大勢の子どもたちが不安になってるところは、こういう体験をしていけばいいんじゃないかなというふうに思います。

それから三つ目ですが、今、授業交流、カリキュラム交流という話がありましたけれども、私が現役を最後の頃からスタートカリキュラムであるとか、アプローチカリキュラムという言葉が出てきて、津山市も取り組んでいるということでもありますけど、やっぱり接続を滑らかにして、でも段差がないと楽しくないですよ。少し自分が上がれる段差が少しあったほうがいいのかと思います。小学校に行ったらこうなんだと、ぴかぴかの1年生って言葉もありましたけれども、期待感が非常に大きいんじゃないかなと思います。滑らかな接続で平行線だったら、面白くないなと、滑らかな接続で行けばいいのかなと期待感も込めて思ったりしています。そのアプローチカリキュラムであるとか、スタートカリキュラムを、違いの認識を職員が持った上でやっていかないと、何をしてくるかわからなくなるので、授業研究をやっていただいて、学びの違いだとか遊びから学ぶとは何かとか、評価カリキュラムで学ぶであるとか、学び方が違うと思いますので、その辺をお互い同士が認識して、スタートカリキュラムや、アプローチカリキュラムとかが進んでいけばいいという感想を持ちました。

詳しい説明ありがとうございました。この様子で進んでいけばいいのかなというふうに感じさせていただきました。

#### ◆市長

ありがとうございます。委員、この教育会議はですね、シナリオがあるようでなくてですね、一行しかないということでしたが、書きようがないということもござい

まして、申し訳ありませんが、お許しをいただきたいというふうに思います。

非常にいい取組だということ、前提としておっしゃってくださった中で3点おっしゃってくださいました。健康調査を含めた取組ですね。2番目は給食、3番は滑らかな接続というふうにおっしゃっていただきました。アプローチということでしょうか。

私はこの健康調査のあり方につきましては、共通支援シートを作成してということがございます。目的は共通支援シートを作成することが目的ではなく、活かしていく、活用していくということですね。今は、支援シート案を作るというところまでということですが、今後の活かし方について、事務局の考えはありますか。

◆事務局

今は、まだこの支援シートの基になるであろうものから、園でそれぞれ作っております教育支援計画は、園によって様式が様々になっております。もちろん、園と学校でも様式が異なっておりますし、様式が違うことによって事務的な面でも効率化になっておりません。そういったことを考えると、どの園から就学する子どもたちも、書かれている内容が小学校で活用できるように考えております。それを使っていただくことで、強いて言えば、小学校でも追記されて、どんどん、どんどん記入されていくというような形が望ましいのかなということ考えているのですけれども、これからワーキングを進めていきますので、ご意見をいただきながら進めてまいりたいと思います。本年度末に様式の案を作成して、では来年度から全園実施というわけにはなかなかいきませんので、試行的な形で、まずは使ってみてどうなんだ、という検証も含めまして考えていきたいなと思っております。

◆市長

全園実施ではないということですが、健康調査は全園実施ですね。シートを使うのということですね。

◆事務局

シートを使っでは、1度に全市でというのはちょっと厳しいかなと思っております。少しずつ広げていきたいと思っております。

◆市長

はい。委員、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

◆教育委員

就学前の子どもたちがスムーズに小学校へということでは、本当に意味のある連携管理、管理職会とかですね、この連携の進み具合としてはですね、すばらしい方向性で進んでいるなというふうに感じます。ここの交流の目的にもありますけど、こういった取組が本当に、園児にとっても、児童にとっても、教職員にとってもですね、先にある、いろんなことを考える機会にもなっていくのかなというふうな形で、すごく前向きな素晴らしい取組だと思います。

子どもたちにとってはですね、給食試食会とか先ほどから出ておりますけど、幼稚園等によっては、学習発表会の見学に行くですとか、そういったことも取り組まれていて、そういったことも、1年生の子どもたちにとっても、幼稚園の子どもたちと接する、また、いつも1年生ということでしたですけど、お兄さんお姉さんということになって、対応ができるということでは非常に意味ある行事であると思います。

なかなかコロナの関係で、できないこともありますけど、ここで落ち着いていったらそういうところも、どんどん交流が進むような形でできればなというふうに思います。

それで、この連携の管理職会というのは、とりあえず管理職を中心にとということの流れですね、管理職が聞かせていただいて、その後、この合同研修というので、小学校のところで、他の先生も入ってくるんでしょうから、現場の一般の先生がしっかりと、現場を見てもらったり、交流をしてもらってですね、校長先生から言われただけでなく、一般の先生が交流していられる中で、いろんなことを考えてこうしていきたいといったようなこと案が出ていくといったような姿になればなというふうにも思います。こういった合同研修会等を通じて、先生方の意識も変わり、レベルも変わり、また交流が進んでスムーズないろんな取組ができていくといった形になればなと思います。これからもよろしく願いいたします。

#### ◆市長

ありがとうございました。

それでは次の委員よろしく願いします。

#### ◆教育委員

連携の体制づくりのところですが、つやま西幼稚園、つやま東幼稚園があるので、小学校3校と4校との連携は、しやすいとは思いますが、これから、それよりもたくさんある保育園や、私立の幼稚園がたくさん入ってくる子どもたちも居るので、受ける側としては、それ以外の子どもが多いわけで、そこの大変さを小学校の先生とかを感じられてるんじゃないかなと思うんですけど、こういった組織化を活かして、他園との組織化というかスムーズな連携が取ればいいのかと思って聞かせていただきました。

給食についてですが、今は核家族も多いし、保育園とかに行ったらなかなか地域の中で小学校のお兄ちゃんやお姉ちゃんと遊ぶことが、幼稚園年代の子どもたちもなかなかないと思います。今、いろいろ思い出したんですが、私なんかはよく遊んでいたもので、小学校はこんなところというイメージが湧きやすいんですけども、小学校に行く機会とか、そういったことがあると、小学校に対する期待が膨らんで、小学校に行きたいって思って、思いながら小学校1年生を迎えるということで、スムーズにいけるかなと思うので、給食とか、学校に行くことはコロナ禍で難しいんですけど、できる範囲で実施していただければなと思いました。

最後の、共通支援シートについて、5歳児の健康調査を全員に実施したというのは、とても大変なことでしたが、していただいてよかったと思います。ただ、その中で保護者が障害の受容とか、ちょっと発達の遅れの受容というのが、格差があって、受容してスムーズに「うちの子はちょっと支援かけてください。」っていう保護者と、全く受けられない保護者とがいらっしゃるんですが、このアンケートをすることによって、こういうふうにスムーズに小学校上がりますというような、あんまり不安をあの形です、保護者も見通しが立てれるようになればと思います。こういうふうにチェックされても、こういうふうにするから大丈夫ですよと、見通しが立てれるといったような、親の不安が受けとめられるような、調査、そして結果の報告という体制を作っておいていただけたらなと思います。保護者も、調査をするのはいいけど、うちの子がそうだったらどうなのかって、多分不安が大きいかなと思うので、こういう理由でこの子のためにやるんですということをきちんとお伝えして、今後こういうふうなことが考えられますというのを、ちゃんと保護者に伝えられたらいいかなと思います。そこが一番、特別支援学級に行く行かないにしても、保護者が行かせる行かせないを決められるので、本当にこの子どものために何が必要かということ、きちんと調査の段階からお伝えして、スムーズに調査をしてそして次に使えるような結果を伝えるような感じになればいいかなと思って聞いていました。以上です。

#### ◆市長

はい。ありがとうございました。

まず1点目は東西幼稚園についてはですね、うまく管理職会等でカバーできてるかもしれないけれども、他にも保育園やこども園や私立の幼稚園がありますので、この連携をどう考えるかということ、支援シートも非常に意義ある取組だということをおっしゃってくださる中で、子どものことよりも、その調査を受けた保護者のあり様と言いますか、対応といいますか、持っていく方ですね。そこをどういうふうに考えるのか、その2点について事務局からお答えいただければとおもいますがいかがでしょうか。

#### ◆事務局

まず、管理職会の件につきましてですけれども、今年度は、東西幼稚園の2園ということで、管理職会を立ち上げることができました。当然なんですけれども、他の園もたくさんございますし、園児さんも大勢いらっしゃいますので、今後、広めていこうと思っています。一度には難しいんですけれども、計画を立てて、少しずつ民間の園とも協力をさせていただきたいと考えております。

それから、共通支援シートの5歳児健康調査の件ですけれども、健康増進課が中心で取り組んでおまして、保護者にアンケートを取るときに、お返しする結果に、ご心配のことがあれば、健康増進課にご連絡くださいというような文言が書いてあります。それからの結果については、面談、面接、保護者と、それから職員と、保健

師さんと、一緒に話をする機会も設けておりますので、そういったところで、ご不明な点があまり多くならないように、取り組んでいるところでございます。

◆市長

では、次の委員をお願いします。

◆教育委員

最初に掲げておられます連携の体制づくりでございますけれども、こういうふうに具体的に幼稚園と学校という、枠組みの中で取組をして、これはあくまでも管理職ということを前置きされているのですが、これが、具体的に幼稚園の子どもたちと、小学校の児童というような交流に持っていけるような体制ができればいいのかなと個人的には思っています。

今はこういうコロナ禍でありますので、交流がなかなか難しいかもしれませんが、この最後のところに研修の中で小学校の生活科のことが載っていますが、小学校の生活科を幼稚園の子どもたちが一緒にできるような交流とか、逆に言えば、幼稚園の先生に、小学校の1年生も含めて、音楽、歌の交流をしてもできるのかなあとということを思っています。

以前ちょっと思ったことがありまして、もう幼稚園の子どもたち、就学前の子どもたちは、小学校のことが気になって、「今度行くところがどうだろうか」ということに興味津々でありますし、すごい期待感もあります。不安感もあるんですけども、逆に言えば、小学校の子どもさんたちが、うまくリードしたら、楽しかったなあという感じを持って1年生の入学式を迎えるんじゃないか、逆に小学校1年生の子どもたちが、幼稚園や就学前の子どもたちが来るということは、そこで一歩、大人になるという変な言い方なんですけど、今までずっと、1年生は、「1年生、1年生」と6年生ぐらいからずっと言われてたのが、小さい子どものお兄ちゃん、お姉ちゃんになって、「僕が案内してあげるけん。」とかそういうような感じで、校内でもリードしてくれたりとか、随分子どもたちも目覚めてくれというか、そういうことを感じたところがあります。昔、そういう場面を見てとってもよかったなと思っています。交流ができるということが、子どもたちの中でも小学校への不安を取り除く一つの大きな要因にもなります。人数が今多くなっていますから、ちょっと先ほどのブロックのところです。ねそういうふうなところでも、分散してでも、できるような、取組になればいいかなということは思っています。これからの体制づくりというのは大変かもしれませんが、何かそういう一歩進めた状態ができるといいのかなというふうに思います。

それから先ほどから出てました給食ですけども、非常にいい取組ができたなと思います。こども保育課や保健給食課の方々に、ご努力いただきまして、本当にいい結果ができたと思います。幼稚園が新しくできるというときに、両園の中に、コンテナが入る場所だけを確保してたのを私も知ってたんですけど、無用の長物にならずよかったです。本当とってもいい結果になっております。この写真の子どもたちがとって

もいい顔をして食べてるのがいいなあと思っております。それから、その上の写真は配膳ですかね。そういう経験をさせるというのはとても、大事な場面だなというふうに思っていて、この給食試食会の取組の様子というとってもいい場面を見せていただいていたありがとうございました。以上でございます。

◆市長

ありがとうございました。

一歩進んだ具体的な取組というところが、管理職の組織化というのが、進んでいる。当然これが一般の先生方に広がっていく、最終は、園児、児童に広がっていく。こういう段階を踏んでいってるんですけど、一歩ずつ進めて欲しいという話がありました。事務局から何かありますか。

◆事務局

交流について一歩進めたということでお話しただいてありがとうございます。今回、管理職会を発足させて話を進めているんですけども、私は小学校教員だったんですけども、この会で改めて気づいたとですが、交流ということについて重く受けとめていたところがあって、非常に準備して臨まなければならないと思っておりました。園の先生のお話を聞くと、「いや、ちょっと園庭で遊具で遊ぶことが大切なことであったり、校舎の中の図書室を見ってみるであるとか、教室ってどんなところなのかなというのを見るだけでも違うんです。」というようなことを言われていました。プールも幼稚園にあるのに、どうして小学校でまた入ることが必要なのかなあと、小学校教員としては思っていたんですけども、幼稚園に行かせていただいて、初めてとっても小さなプールなんだとか、そういう校長先生方と園長先生方が話をする中で、お互いのことを理解するいい機会になったと考えています。それを基にですね、校長先生方は、学校で今度は担当者とその内容の話をします。学校の中で、園の子どもさんたちとどのような交流ができるのかということを一年間考えていただきました。来年度について、それぞれの学校が、うちではこういう給食体験ができますよですとか、生活科のおもちゃ作りのところで、ぜひ園のお子さんと一緒に作ったり遊んだりしたいですということで、来年度の日程も少しずつ定まってきたので、来年度は管理職の先生同士だけではなくて、実際に担当の先生を通して交流の全部を見通したお話ができるような機会を設けていたいと考えているところです。

◆市長

もう少々時間があるようですが、この保幼小連携ということについてはですね、これも教育長とお話をさせていただく中で、就学前から小学校低学年に向けてスムーズに滑らかな接続ができれば、もっともっと落ち着いた、子どもたちの姿を作り出せるんじゃないかとずっと話をしてきた中で、取組を進めてきたということですね。

委員の皆様方からも、これまた一歩前進していい形ができていないのではないかと考えていただきまして、これをしっかり伸ばしていきたいと考えておりますのでよろし

くお願い申し上げたいと思います。

さて、もうしばらく時間がございますけども、今日は学力向上とですねICT、それから保幼小連携ということで意見交換をさせていただいているのですけれども、その他は、そのことにこだわらないで、このテーマを深堀していただいても結構ですし、何かその他のテーマでも構いませんので、何かございましたら、お話をいただければと思いますかいかがでしょうか。

#### ◆教育委員

実は先日、他の県でしたが、こども園に不審者が乱入したというニュースがありました。非常に小さな子どもたちをターゲットにして、不審者の方が入ってくるということが、未然に防げたというのはとってもいいんですけども、この、市内の園でも、訓練もされてるだろうと思いますし、それから幼稚園の方も頑丈で、不審者が入らないように、2重3重のチェックもされてるんですけども、本当に何に起こるかわからない池田小学校の事件依頼、学校現場もそうですし、それから非常に身近なところが本当に何か不安な部分があるなというふうに感じております。

それに関わる、万全の対策をとるというのは大事なことじゃないかなと思います。

監視カメラだとかいろんなものもあるわけでございますけども、それが機能するようにしていかなくちゃいけないかなというふうに思います。これが1点ですね、もう1点、先ほどからICTを使ったタブレット研修だとか、子どもたちはもう本当にいろんな実績が上がってきてるわけでございますけども、一番気になるのがそのものを使った、いわゆるいじめになるような、差別的なこととか、いろんなことが起きないことを願っています。どこかでそういうものがチェックできるといいんだけど、なかなかそれが難しいんだろうなあと感じております。本当はそういう新しいものがどんどん広がってきているのはとても素晴らしいことなんですけども、その反面、それを悪用されると困るなというのが、ちょっと不安な部分として感じております。今、子どもたちも持っているパソコンやスマートフォンなど普及してるものも含めまして、何か不安があるのかなあということを、ブレーキをかけるようで申し訳ないですが、そういう不安を思っているというところ です。以上でございます。

#### ◆市長

貴重なご意見ありがとうございます。

まずは、安全ということですね。池田小学校の件も触れていただきましたし、こども園の話も触れていただきました。通学とかですね、そういうところまで含めて、本当に安全にですね、学校や、こども園など就学前の施設に通っていただく中での安全を確保してということも、これは重要なことだと思います。特に何か幼稚園とかで、取組をしているということや課題を持っているということなどについて、もう一つICTについては、使い方ですね、素晴らしい効果を発揮するんでありましょけれども、使い方によっては残念なことも生まれかねないということもあるかと思ひます。

その辺りにつきまして事務局から何かありましたらお願いします。

◆事務局

新しい園になりまして3年目を迎えております。先ほど、委員からおっしゃっていただきましたが、門で囲われて、施設の対策ができています。また監視カメラもついておりますし、玄関には必ず鍵がかかっているような状態です。ただ、今回のことも園の事件のように、柵を超えて入ってきたというようなニュースを拝見いたしますので、どこから入ってくるかわからないという意識のもとで、警察署の方に来ていただいて、職員が不審者対応の避難訓練等もしております。避難訓練は月に1回は必ず何かの避難訓練をしているんですけども、火事や地震だけではなく、不審者対応ということで、実際にどういうふうに逃げるか、そして、誰が対応するか、子どもたちを誰が守るかというような役割分担をしながら、有ってはならないんですけども、そういうところを想定いたしました訓練を積み重ねているという状況です。

園は、今、男性女性と言ってはいけないんですけども、女性が非常に多い職場ですので、今回のこども園の事件は、男性の職員の方が止められたということを書いてありましたけれども、そういったところで、職員も怖さもあると思うんですが、子どもの命を守るということを一番に考えいかなければならないと考えております。

◆事務局

先ほどの幼稚園の様子に加えまして、民間の保育園が市内には多くありまして、大抵の保育園につきましても同じような状況で、監視カメラとかも設置をしておりますし、そういうカメラがなかったところにつきましては、先般、小さな親切運動ということで、いくつか寄付をいただいたりという形もしております。それから、同じように不審者対策の避難訓練は各園で工夫をしておられます。それから、先般、遊具の事故がありましたが、ああいう事故がありました時にも、保育協議会とか、全園に、市から通知をしまして、遊具の点検をしていただいたりというようなことをしていただいております。公立だけでなく民間につきましても、注意していただく点については市から喚起をさせていただいている状況です。

◆事務局

先ほどのスマホ等の使い方などにつきまして、年間計画を立てて取組を進めておりまして、子育てワークショップでも、保護者の方にもしっかりと使い方をお伝えしています。保護者の方にもご協力いただかなければならない部分が非常に大きいです。親子で学ぶ親学講座を実施しております。教育委員会から全学校を回らせていただいて、親子でしっかり使い方を考えるというような講座も開設しているところです。そんなことを、我々も、現場も、危機感をしっかり持ちながら対応しております。それから、先日の町田市の痛ましい事件を受けまして、学校の先生方にもタブレットを使う時も、そのような自由に発言できる場もありますので、その使い方についてはしっかり文書を出しながら、先生がしっかりと気をつけていただくように指導しているところです。

#### ◆事務局

学校の安全確保ということで、防犯カメラにつきましては全ての小中学校に通わり必要台数の設置を完了しております、今後は現状に応じて設置場所を変更ということなども必要だと考えています。

通学路につきましては、毎年、学校から教育委員会に危険箇所のご指摘をいただいているんですけれども、通学中に車が突っ込むなどの痛ましい事故がありましたので、今年度につきましては、例年以上に多くの箇所に対応できるような形で都市建設部と協議を進めております、今月中にはいくつかの工事が発注される予定です。道路の白線やガードレールや防護柵などについて市道を中心に改善されていくかと思います。

遊具の話になりますけれども、遊具につきましても、2年に1回、全ての小中学校の点検をしております、今回の事故を受けて、必要なところについては使用の差し止め、改修などの対応を行っています。岡山市で起こった事故なので、遊具のメーカーが点検すらできていないところもあるそうで、改修も含めて時間がかかっているようなのですが、津山市ではきちんと対応できるように準備をしているところです。

ICTにつきましても、個人のアカウントを同じ番号ではなく、パスワードも発行しておりますので、なりすますというような事故も起こらないような対応を行っております。また、全ての情報を管理するということではないのですが、通常考えられない時間に使用している場合など、ある程度の稼働状況につきまして監視しております。

#### ◆市長

それではちょうど予定している時間ということでもございますので、それでは最後に、教育長から、お話をいただきたいと思えます。

#### ◆教育長

今日の後半戦のお話で一番印象に残ったのは、この連携というのは、不安を取り除いて期待を膨らませるそういう取組だろうというような考えをいたしました。今、小学校では、入学してくる園が大きい学校だと10園以上の園から子どもたちが来る。よく校長から聞くのは、各園の建学精神であるとか教育目標もあるんだけど、津山市の子どもとして大切にしたいということです。就学前までに身につけたい子どもの姿を、以前、関係機関で共有したものを作り上げてますので、それをしっかりと振り返りながら取り組みたいと思っています。特に管理職会は、新しい幼稚園ができて、新たな組織づくりの第一歩として、まずは管理職が組織を作ろう、今度は枝葉をつけながら、公立私立も交えて組織がなされるんじゃないかというふうに私は期待してます。そんな組織をしっかりとさせながら、津山市として特色ある取組、例えば、今現在やっておりますけれども、幼稚園での英語活動、或いはリズムジャンプ、こういうものをしっかりと津山市の良さとして、引き続き取り組んでいきたいと思えます。

それから、給食体験ということが新たにできましたし、今日はトイレ体験というお話も出ました。先日、南小学校にお邪魔したら校長先生が、「トイレが綺麗になって、

子どもが、ホテルのトイレじゃと言っている。」そんな子どもらしい話を聞かせてもらいましたので、こういう体験も、しっかりこれからも連携しながらできたらいいと思っています。

◆市長

私もトイレは絶対きれいにしたいと考えておりますので、いいお話が聞けました。先ほどの教育長のお話をもって今日の議題は以上ということにさせていただきたいと思います。貴重なご意見ありがとうございました。

◆事務局

ありがとうございました。

それでは「4 その他」ですけど何かございますか。

～ 特になし ～

それでは以上をもちまして、令和3年度第1回津山市総合教育会議を閉会といたします。本日は誠にありがとうございました。